

自治体議会研究所セミナーin 可児

令和5年10月5日(木)

「議員の資質向上と議会運営の基本」

講師 高沖秀宣

議会基本条例について

(議会基本条例の意義)

・議会基本条例は、自治体の意思決定における議会の役割を、自治のルールとして議会・執行機関・住民の3者が共有するもの。制定しただけでは意味がなく、制定してからが議会改革のスタートであり制定後に様々な改革や実践を行って初めて制定の意義がある。

・二代表制を実践していく上で、実際に議会を活性化させるための事項を定める必要性の面からも議会基本条例制定の意義はある。

・議会基本条例制定にあたっては、

- ①抽象的ではなく制定後の実践につながる規定
- ②議会の政策形成機能強化を図る。
- ③議員相互の討論を通じて多面的な検討を行う体制。
- ④住民や外部有識者等の意見を吸収し、開かれた議会の実践等が

重要である。

土岐市議会

水石 玲子

2023 年 新人議員特別セミナーを受けて

今回のセミナーでは議員の資質向上と議会運営について基本的な事柄を講師の先生から学びました。基本条例から大切な部分を学びながら議会の在り方など、改めて聞くことにより果たすべき議員としての役割を実感できました。

特に二元代表制の下、議会は首長の追認機関ではなく、執行部の監視だけでなく政策提言ができる議会へと成長していかなければならないと感じました。

議員としての議員力の向上に向けて個々に研鑽することはもちろんのこと、議員同士で政策立案や政策提言を共有するなどし、議会としての資質向上に向け議会力も向上していかなければならない事も学びました。

早稲田マニフェスト研究所の議会改革調査より、①情報共有、②住民参画、③議会機能強化の三点をあげ、ランキング紹介していましたが残念ながら土岐市は岐阜県の議会の中で300位以下になっており変えていかなければならない部分が多様にあるように思いました。

住民参画に関しましては傍聴をしやすいしたり、広報広聴委員会でも話し合われましたが、議会報告会の方法を改善することにより市民からの声を受け取りやすくする方法を模索するなど改善に努めなければならぬと感じました。議会機能の強化に向けての勉強会を開くなどして権限・能力を発揮するための講習を開くなどしても良いのではないかと思います。

一般質問についても講義があり、単に質問することで終わることなく、過去の質問に対して執行部の答弁へも追跡調査を行い、質問の棚上げ状態で終わらせることなく、その後の考えなど執行状態の確認もしていかなければならないと感じました。

一人の議員の政策提案を議会からの政策提案として出来るよう委員会や全員協議会などで議員間討議など実施出来る機会が出来れば土岐市議会としての議会力向上へ向けての足掛かりになるのではないかと思います。

今後も議員力向上に向け研鑽に励んでいきます。

土岐市議会 伊藤 公男

自治体の防災・減災対策と議会の役割（オンラインセミナー）

令和5年10月27日（金）

・自治体の防災・減災マネジメント（基礎編）

講師 鍵屋 一

人間には、予測しない事態にあったときに、「自分は大丈夫」という先入観や偏見（バイアス）が働き、物事を正常の範囲だと思い込んでしまう心の働き、正常性バイアスが働く。そのために、どうしても、初動が遅れてしまいがちである。災害時に、自力での避難が困難な高齢者や障がい者らの「逃げ遅れ」を防ぎ、命を守る為、一人ひとりの避難方法などを事前に決めておく「個別避難計画」と言います。要支援者の氏名、住所、避難を手伝う人、避難先、避難時に配慮すべき事項などを記入します。2021年施行の、改正災害対策基本法で、初めて法的に位置付けられ、市区町村の努力義務となっているが、個人情報の観点からも進んでいない状況です。災害が起きると、福祉を必要とする人ほど、不利な状況に追い込まれてしまいがちです。そうした事のないよう、平時から、支援が必要な人が把握され、切れ目のない災害時の支援につながるように、個別避難計画は、極めて重要となる。この計画は、災害時に留まらず、平時からの福祉の仕組み全体を、向上させていく大きな可能性を持つことを学ばせていただきました。

土岐市議会

水石 玲子

令和5年 1/10、11 JIAM研修「自治体財政の見方」レポート

伊藤 公男

研修一日目前半は「地方自治体の財政運営と議員の役割」について講義がありました。

その中で自治体の環境変化についての内容に、少子高齢化や人口減少などの影響により、公共施設やインフラ維持管理・更新費が2050年には2倍になり、自治体によっては2040年頃から維持できないところもあると聞き、もう現在のような自治体の管理が出来なくなってくるのが間近に迫っていることに危機感を感じました。

また、高齢化による民生費の増加、人口の自然減少により年金収入の安定した高齢者の減少で、地域経済への影響が表れるなど、改めて聞くと今後の地方財政の課題が深刻であることを考えさせられました。

市の予算案は市民の代表である議会に提出され、議会が承認することを考えると、財政民主主義の観点からも予算審議、監視をしっかりと行っていくために、自身の財政に対する知識をもっと深めることが急務であると痛感しました。

財政分析指標の意義についての講義もあり、財政に関して疎い自分には難解な内容でしたが、実質収支比率のみ見るのではなく、実質単年度収支比率を見ていくことによって、早期に財政が悪化していることに気付けることを学び、なかなか難しい内容ですが実際に土岐市の財政を見ていく上で役立っていこうと思いました。

一日目後半は「自治体財政指標の見方」についての講義でした。

その中で支出が義務づけられていて削減しにくい経費である「義務的経費」について学びました。この義務的経費の人件費、扶助費、公債費の中で、土岐市では人件費の比率が同規模の自治体に比べ、多くを占めていることも分かり、財政の問題点を知ることが出来ました。

土岐市は歳出構造の弾力性が乏しくなっている事を示す50%を超える52%となっており、この点も改善していかななくてはならない問題点であると分かり勉強になりました。

二日目前半は各グループに分かれてのグループディスカッションでした。まだ学んだばかりの内容についての話し合いで戸惑う部分もありましたが、各自治体の財政状況を話し合うことは、非常に勉強になりました。他の自治体でも特有の問題点があり、対処していかなければならない部分が多少分かったように思いました。しかし、まだまだ学ばなければならない事が多くあるように思いました。

二日目後半は「今後の健全な行財政運営に向けて」の講義でした。

持続可能な地方行財政基盤を構築する為の内容で、将来の人口構造の変化に対応するための行財政制度の在り方を検討することや、制度の改革に取り組む抜本的な改革を推進するための講義でした。これも難解な内容でしたが、財政を監視していくためには理解していかなければならない内容でした。もう一度復習し直して財政改革に対する考え方を深めていかなければならないと感じました。

二日間に渡り大変参考になる内容でした。決算などの数字の奥にある問題点を探るためにも今後も研鑽し続けていきます。